

2026 年度 第 4 回 マッチングワークショップ (MWS) 実施報告

本年度第 4 回目の MWS は、7 月 18 日 (土) に午前 10 時から開催されました。42 名の参加があり、天候にも恵まれ、中には長野県や静岡県など遠方から足を運んでくれる参加もありました。

今回は 1 教室を使用し、5~6 名ずつ 8 つのグループに分かれて、ビブスを着用し、色ごとに着席してもらいました。開始前から自然に自己紹介を始めるグループもあれば、緊張した様子で待機するグループも見られました。「開始まで自由に会話を楽しんでください」と声をかけると、徐々に会話が広がり、多くの参加者が和やかな雰囲気の中で開始時刻を迎えました。

【オープニング】

まず、進行担当 (ファシリテーター) から、本プログラムは入学試験ではなく、湘南工科大学のアクティブラーニングとの相性を確認する場であるという MWS のコンセプトについて説明を行いました。その後、約 10 分間のアイスブレイク (緊張をほぐすゲーム) を実施し、参加者同士の交流を促しました。開始時には緊張した様子だった参加者も、アイスブレイクを通じて表情が明らかに和らぎ、その後のグループワークでは積極的に議論する姿が見られました。

【前半グループワーク】

今回のテーマは、湘南の海岸における海岸ごみに関するものでした。参加者は事前に準備してきた内容をグループ内で 2 分間ずつ発表し、その後のディスカッションでは、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。

グループによっては、発表の際に自ら立ち上がって説明する参加者や、3 日間かけて作成した資料を印刷して持参する参加者、2 分間という制限時間を意識して発表を組み立てる参加者も見られ、それぞれが十分な準備をして臨んでいる様子がうかがえました。さらに、現在の社会課題に対して、既存の技術や新たな仕組みを組み合わせながら解決策を考える場面も多く見られました。

途中でスマートフォンを活用して必要な情報や根拠となるデータを調べる時間も設けました。調べた情報を踏まえながら、自分たちの意見を整理し、後半の発表内容を調整する様子が見られました。

【後半グループワーク】

休憩後は、ビブスの番号をもとにグループを再編成し、前半のグループワークでまとめた内容を新しいグループ内で 2 分間ずつ発表しました。参加者は前半グループの代表として、緊張しながらも自分たちの考えをわかりやすく伝えようと努めていました。また、各発表の後には 2 分間の質疑応答の時間が設けられ、発表内容を掘り下げる質問が出たり、活発な意見交換が行われました。議論の中では、CO₂ 排出量をどのような基準で算出しているのか、といった細かい点まで踏み込んだ質問や意見が交わされ、データの捉え方や根拠について考える場面も見られました。

【クロージング】

振り返りシートおよびアンケートへの記入を行いました。さまざまな学校から集まった同世代との議

論を通じて、本学が重視するアクティブラーニングの特徴や学びのスタイルを体感し、その相性を確認してもらえたようです。前半・後半のグループワークを通じて参加者同士の交流も深まりました。開始時には緊張した面持ちだった参加者が、終了時には互いに意見を交わしながら明るい表情で交流する姿が印象的でした。

終了後に数名の参加者から「今回のテーマは興味深く、議論しやすかった」という感想が寄せられました。高校で同様の調査経験のある参加者からは、楽しく深い議論をすることができたという声も上がっています。終了後には、参加者同士が会話を続ける様子も見られ、充実した時間を過ごしてもらえたことが窺えました。

次回の MWS は、8 月 2 日（土）に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

湘南工科大学 総合文化教育センター
野呂昌生